

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	DAW I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～19回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 20～29回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 30～34回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 35～37回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になってます。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符・休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、#系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、#系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～16回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、#系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 17～19回目 (前期試験)	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、 / Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、					
【後期】 20～25回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2) Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 26～30回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 31～35回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティを上げるような学習。					
【後期】 36～37回目 (後期試験)	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	44回(88単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	ビジネス文書					
【前期】 7～14回目	コミュニケーションについて					
【前期】 15～17回目	・音楽活動における基礎知識 音、電気、マイクスピーカーについて					
【前期】 18～19回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
【前期】 20～23回目	音楽業界基礎知識＃1-3					
【後期】 24～44回目	音楽業界基礎知識＃4-25					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	アーティスト特別セミナー				
【前期】 4～6回目	個人プロフィール制作				
【前期】 7～9回目	各コースイベント				
【前期】 10回目	アンサンブル発表会				
【後期】 11～13回目	コースイベント				
【後期】 14～16回目	ライブ見学				
【後期】 17～19回目	アンサンブル発表会				
【後期】 20回目	コース別ファイナルイベント				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～33回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
34～38回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【前期】 39～42回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 43～70回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 70～71回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【後期】 72～74回目 (後期試験)	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	リズムレ&スコアリーディング		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	リズムレ&スコアリーディング	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験38年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。					
授業概要						
音楽の三大要素「リズム」にまつわる感覚と知識を、担当楽器によるリズムレ・アセスメントとアカデミー講義から学ぶ。						
到達目標						
専科の楽器演奏の際にBeatをコントロールする感覚とtempoのキープ、そしてFeelのマニピュレイトを実現する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	「4分音符アセスメントとリズムの概要」 ・4分音符のテンポキープのアセスメント(J=60～120)・リズムとは何か ・Beatとは何か ・Beatリズムの世界分布と価値 ・リズム哲学 ・メトロノームの使い方					
【前期】 6～10回目	8分音符アセスメントとBeatとFeelの分類 ・8分音符のキープアセスメント(J=60～120)・8分音符の裏キープアセスメント ・BeatとFeelとは何か ・Feelの種類 ・ノリの構造分解(縦・横)					
【前期】 11～15回目	16分音符アセスメントとスピード感 ・16分音符のキープアセスメント(J=60～120)・フロント・ジャスト・ビハインド ・16分の裏キープアセスメント ・テンポとスピード感の違い。・Feelとスピードのリレイション ・ダブルタイム ・2Beat ・4Bbeat					
【前期】 16～20回目	3連と6連のアセスメントとFeelとBeatのキャッチボール ・3連符のキープアセスメント(J60～120)・3連の裏キープアセスメント ・音源によるFeelとBeatの聴覚レッスン ・FeelとFILL INのリレイション					
【後期】 21～24回目	トランスフォーメーション、Beatリズムのヒストリー ・各種音符のチェンジアップとアセスメント。・Beatリズムの起源と因果 ・黒人音楽 ・ジャンルとFeelのリレイション ・スピリチュアル ・ダンス ・タメともたり、ツツコミと走り。					
【後期】 25～29回目	シンコペーションのアセスメント、プログレス・リズム講① ・シンコペーションキープのアセスメント。 ・Jazz・Classic Blues・Country Blues・Gospel・City Blues・Chicago Blues・Jump Blues・R&B					
【後期】 30～34回目	アドバンス・リズムのアセスメント、プログレス・リズム講② ・シャッフル・リズムの実践とアセスメント。・doo-wop ・Modern Jazz ・Modern Blues ・R&R ・Soul ・Northern Soul ・Southern Soul・Motown ・Stax ・Atlantic					
【後期】 35～37回目	アーティキュレーション、プログレス・リズム講③ ・包括的総合実習とアセスメント。・Funk・Modern Soul・70年代MOTOWN・Sweet Soul・Modern Gospel・Fusion・Disco・Garage ・Black Contemporary・Rap(Hip・Hop)・Contemporary R&B					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターアナライズ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターアナライズ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴33年 ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
実際に演奏をする際にスコアを見て何をどのように解釈して演奏する方が良いのか、 楽曲構造(Keyやコード)がどうなっているのか、適合するスケールは、何が弾けるのかを考察解析しながら授業を進めます						
到達目標						
実際にスコアを見てその楽曲のテンポやFeel、Key、スケール、コード等は何か、 転調はしているのか？楽曲構成は、どうなっているのかを把握出来て弾ける事を目指します						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	楽曲テンポや構造を知る ・拍子記号、音楽記号・音符、休符・楽曲構成について、 ・Keyとは、何か・サークルオブフィフス・Scaleに付いて、コードとは、その表記されている意味とは					
【前期】 6～11回目	Degree(度数)表記への理解 ・Degree表記の理解・Scale上に出来る和音(コード) ・コードネーム表記でのプログレッション・Degree表記でのコードプログレッション					
【前期】 12～16回目	Tone Intervalがdiminishedとaugmentを含むコード(Harmonic minorとWhealtone Scaleについて) ・diminished、augment のIntervalを含むコードとそのコードを使用したコードプログレッション ・アナライズ・コードアルペジオ・アドリブ(1) Major、minor のPentatonic Scale					
【前期】 17～20回目 (前期試験)	コード進行における機能 ・Chord Function(1) Tonic Sub Dominant Dominant ケーデンスとは何か ・Dominant Motion・Secondary Dominant・コードプログレッション・アドリブ(2) Major Scale、minor Scale、Pentatonic					
【後期】 21～24回目	クリシエやペダルと呼ばれる進行、同じ楽曲での転調パターンについて・Chord Functionの復習 ・クリシエとペダルの理解と進行パターン・ 転調のパターン、平行調、同主調、近親調、遠隔調・コードプログレッション・アドリブ(3) Major Scale、minor Scale、Pentatonic					
【後期】 25～28回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(1) Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Tonic minorのDegree、Function(2)・プログレッションアナライズ・アドリブ(4) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minorを含む					
【後期】 29～31回目	Tonic minor Scale上に構成されるコード(2)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(3)・プログレッションアナライズ・アドリブ(5) Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む					
【後期】 32～37回目 (前期試験)	Tonic minor Scale上に構成されるコード(3)、Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor ・Degree、Function(4)・プログレッションアナライズ・アドリブ(6)Major、minor、Pentatonic、Harmonic minor、Melodic minorを含む					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターパフォーマンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターパフォーマンスⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴18年 自己のバンドでメジャーデビュー解散後はゲームコンテンツなどに楽曲提供、レコーディングに参加、現在は様々なアーティストにライブサポート、ギターレコーディングなどで活躍					
授業概要						
発表会に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。						
到達目標						
校内のみにならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギタリストとしてのポテンシャルの向上を図る。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性・過去に行われたギターパフォーマンス(ステージイベント)にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)					
【前期】 6～10回目	楽曲に必要な各種スケールの練習 ・発表会で使う楽曲のメジャースケール、マイナースケール全ポジションの理解、各ブロック毎に弾く練習。リズム、コードストローク練習・楽曲にでる特殊なコードへの対策(ダイアトニック外のコード等)					
【前期】 11～15回目	イベントライブ(ギターパフォーマンスクリニック)の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。					
【前期】 16～19回目	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う・演奏楽曲に使われるメジャー＆マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復)・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等					
【後期】 20～24回目	自身で選んだ楽曲の分析、そこから見える自己プロデュース ・ギターパフォーマンス(ステージイベント)に向けての自身の楽曲のポイント部分、コード進行とソロ、衣装やステージパフォーマンスの確認、ブラッシュアップ。・講師から学生へのイベント前最後アドバイス等					
【後期】 25～29回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・発表会の反省会や今後への課題、見直し					
【後期】 30～34回目	ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方聞かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。					
【後期】 35～37回目	授業内にて実践発表と2年生の発表会(＋コンテスト)への対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ギターベーシックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターベーシックⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年。サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。				
授業概要					
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習。「ギターリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。					
到達目標					
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	「指板上の音」の学習、コードの概念、チューニングや譜面の重要性 ・6弦/5弦/4弦の指板上の音を覚える方法。・オープンコードの成り立ちやセーハコードへの移行方法。・3和音(トライアド)の学習。・チューニングの重要性、アーティスト・ミュージシャンから見た譜面の重要性。				
【前期】 6～10回目	4和音(オープンコード&セーハコード)の学習 & 各スケール練習方法 ・3和音(トライアド)からの応用、4和音の理解と学習。・メジャースケール key=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール key=Am(5position)の習得				
【前期】 11～15回目	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・3和音を用いてリズム譜を演奏する技術・4和音を用いてリズム譜を演奏する技術(3和音含む)				
【前期】 16～19回目	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・コード進行表 & リズム譜を同時に理解し演奏する方法 前期試験				
【後期】 20～24回目	調号(key)を理解した演奏の習得 ・前期で習得したメジャースケール、マイナースケールを用いて、色々なkeyでスケールを演奏・ダイアトニックコードの理解 ・メジャースケール Anykey=C(5position)の習得・ナチュラルマイナースケール Anykey=Am(5position)の習得				
【後期】 25～29回目	業界標準のスコアの読み方を習得 ・マスター譜面から、必要な情報を読み取り演奏できるようにする。(調号、楽典含む) ・現場で必要な音符読みトレーニング				
【後期】 30～34回目	マイナーのダイアトニック・コードにおけるファンクションの理解と習得 ・ナチュラルマイナー(エオリアンモード)の理解と習得・ハーモニクマイナーの理解と習得・メロディックマイナーの理解と習得※各スケールの代表的な使い方のレクチャー				
【後期】 35～37回目	指板上の音、コード(3和音&4和音)、スケールの全把握と進級時に今後必要な知識の整理 ・ヴォイシングに活用できる指板上の音の把握・コードの概念、応用法・2年次のダイアトニックコードの活用について、音楽業界へのアプローチアドバイス・後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターリストセオリー		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ギターリストセオリー	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経歴14年。自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。				
授業概要					
一社会人として、ギターリストとしての音楽業界知識を身に着ける講座。音楽家としての楽譜の大切さ、プロフェッショナルが揃える機材の解説や意識している事などを学ぶ。また、純粋に音楽を楽しむ為の方法論やメンタリティの改善の為のカウンセリング等も含む。					
到達目標					
音楽を仕事にしていく為の方法を個々に考え、将来的な自分の「理想の仕事」の為に音楽業界の仕組みや知識を身に着け、自分がプロギタリスト、ミュージシャン、アーティストとして生計を立てていく為の方法を考える。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	プロギタリストやプロミュージシャンが揃えている現代の機材の解説 ギターの楽しさの醍醐味である「アンプ」や「エフェクター」の知識				
【前期】 6～10回目	「音楽と仕事」「夢と現実」好きな事で生計を立てる事の考察 音楽家が大事にすべき「譜面」の読み方、「コード」「楽典」「リズム記号」「調号」の理解				
【前期】 11～15回目	プライベートスタジオの構築について エレクトリックギターのシールドケーブル、電源ケーブル等のケーブル基礎知識				
【前期】 16～20回目	イベントライブyaの必要書類の知識 前期試験				
【後期】 20～24回目	DAW上での音楽制作においてミュージシャン、アーティストが必要とする音源の知識				
【後期】 25～29回目	ギターの楽しさの醍醐味である「真空管」の知識(アンプ・エフェクター応用)				
【後期】 30～34回目	ギターリストの個性を活かす「ピック」についての考察 音楽業界知識講座				
【後期】 35～37回目	自分の音楽を世界に配信し生計を立てるシミュレーション講座 後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ギターフィジカルトレーニング		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	フィジカルトレーニング	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験3年 同校主催ギターリストコンテスト入賞、音楽TV番組放送出演経験他、現在はバンド活動や生バンドカラオケでのギター演奏、楽曲提供やバンドサポートなどで活動中。					
授業概要						
楽曲を演奏する際に必要な基礎ギター能力を磨く、ギターを弾く際の運指やピッキングフォームにスポットをあて、ギターに必要な毎日使えるトレーニング集をクリック(メトロノーム)を使用しながら幅広いトレーニングを行う。						
到達目標						
プロフェッショナルが意識している正しい運指、アマチュアにありがちな適当なフレー징ングやフォーム等の矯正、またピッキングトレーニングができるようになった上で音感、リズム感、表現力(アーティキュレーション等)の向上と求めた演奏の実現						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	「フィジカルトレーニング&オルタナイトピッキング&ピッキングフォーム」 ・クロマチックスケール(半音進行スケール)とオルタナイトの基礎力向上。・正しいピッキングフォームの矯正。・クリック(メトロノーム)の正しい使い方/裏クリック体感法。・チューニングの重要性、正しいチューニング法。・8ビート、3連符(シャッフルリズム)、16ビートそれぞれの体感トレーニング。					
【前期】 6～10回目	「フィジカルトレーニング&チョーキング(ベンディング)」 ・ペンタトニックスケール各種(メジャー、マイナー)を使い、1スケールに7つのダイアトニックとは違う指運のトレーニング ・チョーキングの概念や左手のネックの握り方講座⇒半音/全音/1音半/2音それぞれの左手の耐久力アップ向上					
【前期】 11～15回目	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅠ」 ・メジャースケール(イオニアンモード)を使った明るいスケールの音感を養う。・ギターリストの苦手克服(小指の使い方、体を使ったリズムトレーニング等)。アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る					
【前期】 16～20回目	「フィジカルトレーニング&アーティキュレーションⅡ」 ・ナチュラルマイナースケール(エオリアンモード)を使いメジャースケールとの違いや転調を行い、メジャースケール(イオニアンモード)と並行してメカニカルなトレーニングを行う。・アーティキュレーション(ハンマリングやスライド、グリッサンド)を学び、左手の表現力向上を図る。・上記1回～15回目の応用&復習					
【後期】 20～24回目	「クロマチックスケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレー징ングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレー징ングを学ぶ					
【後期】 25～29回目	「メジャースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレー징ングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレー징ングを学ぶ					
【後期】 30～34回目	「マイナースケールの応用&ミュート奏法&BPM(テンポ)」 ・キーの変更やリズムを変えて更に難解なフレー징ングの練習。・BPM(テンポ)の重要性、自分に合ったテンポ感や苦手なテンポなどの考察含む。・ミュートやアクセント等を考え、より音楽的なフレー징ングを学ぶ					
【後期】 35～37回目	各スケール(ペンタトニック/イオニアン/エオリアン/クロマチック)の総復習 ・アーティキュレーションやピッキングフォーム、チューニングやテンポの重要性の再認識 ・上記1回～34回で学んだすべての総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						